

今後の進め方等について

国の動き

- 人口減少に伴う課題へ対応するため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定(第1期：平成27年度～令和元年度、第2期：令和2～6年度)。
- デジタル田園都市国家構想（令和4～）を策定
- 令和6年12月「地方創生2.0の基本的な考え方」では、「この10年間で人口減少の流れを変えるには至らなかった。(…) 人口減少と出生数・出生率の低下が想定を超えるペースで進み、高齢化が進むことで労働供給制約や人手不足が進行した」等と振り返っている。今後は、「人口・生産年齢人口が減少するという事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じる」としている。

【地方創生2.0の基本姿勢・視点】

- ▶ 人口減少を正面から受け止めた上での施策展開
- ▶ 若者にも女性にも選ばれる地域づくり
- ▶ 異なる要素の連携と「新結合」
- ▶ AI・デジタルなどの新技術の徹底活用と社会実装
- ▶ 都市・地方の補完関係の強化と人材循環の促進
- ▶ 好事例の普遍化(点から面へ、地域の多様なステークホルダーの連携)

本市の状況

- 本市では、平成28年2月に「多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定(第1期：平成27年度～令和元年度、第2期：令和2～6年度)。

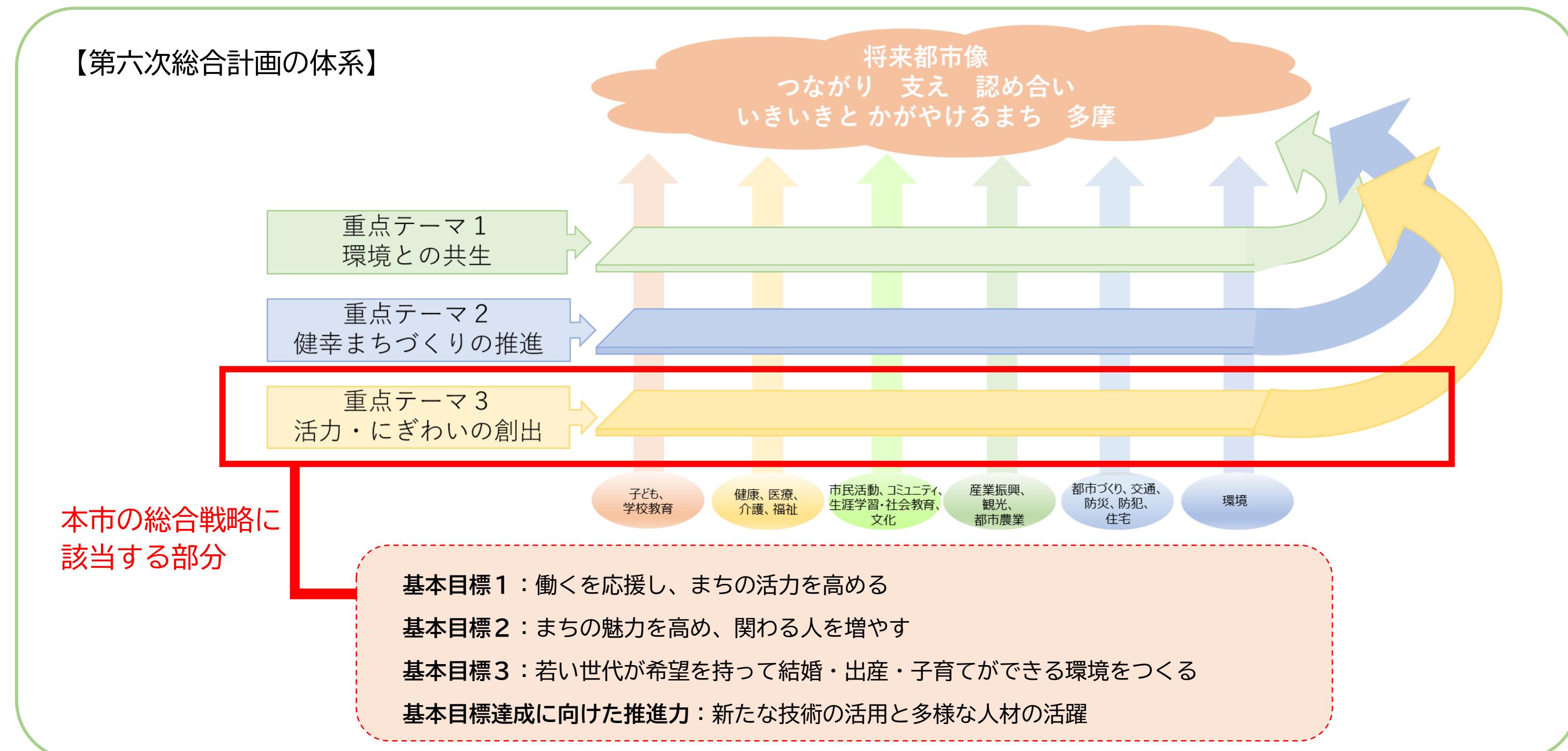
- 令和5年11月からは、まちづくりの最上位計画である「第六次総合計画」と総合戦略を一体化（次ページ参照）。

- 本市では、大型マンション竣工に伴う転入増などでこの10年間の人口は、ほぼ横ばい傾向で推移している。一方、出生数の減少と死亡数の増加により、今後は人口減少が見込まれている。

⇒ 今後の人団減少を正面から受け止めながら、「地方創生2.0」の考え方も踏まえた取組を推進していく必要がある。

第六次総合計画との一体化について

- 令和5年11月からは、まちづくりの最上位計画である「第六次総合計画」と本市の総合戦略を一体化している。
- 第六次総合計画では3つの「分野横断的に取り組むべき重点テーマ」を設定している。このうち、総合戦略として重点テーマ3「活力・にぎわいの創出」を位置づけ、その下に「基本目標」「基本目標達成に向けた推進力」を設定している。



■ 報告案作成のイメージ

多摩市(現行の総合戦略体系)

- 将来都市像：つながり 支え 認め合い
いきいきとかがやけるまち 多摩

- 重点テーマ③：活力・にぎわいの創出

〈基本目標〉

①働くを応援し、まちの活力を高める

②まちの魅力を高め、関わる人を増やす

③若い世代が希望を持って、結婚・出産・
子育てができる環境をつくる

〈基本目標達成に向けた推進力〉
新たな技術と多様な人材の活用

国

- 目指す姿：新しい日本・楽しい日本
一人ひとりが多様な幸せ
(Well-Being) を実現できるまち

生活不安の解消
→新たな挑戦、
自己実現

- 「強い」経済 ・ 「豊かな」生活環境

①安心して働き、暮らせる
地方の生活環境の創生

②付加価値創出型の新しい地方経済の創生

③人や企業の地方分散

④新時代のインフラ整備、
AI・デジタルなどの新技術の活用

⑤広域リージョン連携

多摩市(報告案の作成イメージ)

- 将来都市像：つながり 支え 認め合い
いきいきとかがやけるまち 多摩

- 重点テーマ③：活力・にぎわいの創出
〈基本目標〉

①-----

②-----

③-----

↓
報告案を
市長へ提出

基本計画の改定に合わせて反映

■ 取組を検討するにあたっての視点について

1. 6つの政策分野との関係性

(1)各政策分野との関係性

→ 総合計画の各政策における目標達成のみならず、「活力・にぎわいの創出」にも資する(相乗効果が見込まれる)事業など

(2)各政策分野と重ならない領域の取組

→ 将来を見据え必要性や重要性が高いと思われるが、6つの政策分野からのアプローチではカバーできていない事業など

2. 多様な主体との連携

未来へ向けて、多様な主体(市民や産学官金労言士、他自治体)との連携により、都市やまちの様々な課題に対し、新しいアイデアと技術によって解決を目指す取組など